

## 教育委員意見交換会

日時 令和3年12月27日(月) 午前9時15分～午前10時40分

場所 高層館20階第1特別会議室

出席者 河盛委員、宮本委員、鈴木委員、新谷委員、長田委員

(事務局)山崎教育次長、橘理事

中山総務部長 藤本教育センター所長、大貫学校管理部長

南教育環境整備推進室長、隈元企画相談課長、渡邊能力開発課長

中達生徒指導課長、永木教育政策課長、至田教育政策課長補佐、

木村教育政策課企画係長

### 案件

- ・区教育連携担当及び区教育相談窓口に係る総括について
  - ・適応指導教室の今後の配置について
  - ・令和4年度全国学力・学習状況調査への参加について
  - ・令和3年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の堺市の結果について
- その他非公開案件あり

#### 区教育連携担当及び区教育相談窓口に係る総括について

市民に身近な区役所において学校の課題へのきめ細かな対応を図り、教育の充実をめざすことを目的に、平成31年4月1日から教育委員会事務局総務部教育政策課に区教育連携担当を設置し、その職員を北区役所及び美原区役所に配置してモデル実施してきた。

また、平成27年度から各区役所に教育相談窓口を設置し、教員OBを配置して保護者や学校からの相談に対応している。

それぞれの取組について、効果を検証し、令和4年度に向けて方向性を定めるため、「区教育連携担当に係る総括(案)」をとりまとめた。

#### (主な意見)

・市民はこれらの取組を知らないのではないか。

⇒ホームページ等に掲載し、周知を図っているが、教育相談窓口については利用者が少ない。より効果的な市民サービスができるよう、制度そのものの整理が必要と考える。

・区の教育相談と教育センターの教育相談は、同じような機能を異なる部署が行っていて、情報・カネが無駄になっている印象。子どもに視点を置き、一つの部署で同じ指揮官のもと進めるべきだと思う。

⇒様々な相談窓口があって、相談内容に応じた対応ができていればよいと考える。その点も今後整理していく。

・大切なことは、情報集約のシステム化が図られ、子どもたちが取り残されることがない体制を整えていただきたいということ。予算が厳しいと聞いているので限られた予算を有効に使ってほしい。

### 適応指導教室の今後の配置について

教育委員会では、不登校児童生徒の集団生活への適応、情緒の安定、基礎学力の補充、基本的な生活習慣の改善等のための相談指導を行い、社会的自立をはかる施設として、適応指導教室を設置している。国としては、適応指導教室の標準呼称を「教育支援センター」としていることから、本市においても「教育支援教室」に名称変更を検討している。またニーズの高まりから、現在常設している適応指導教室や出張型の適応指導教室に加え、新たに出張型の教室の開室を検討している。

#### (主な意見)

- ・適応指導教室の利用率が低い地域は、フリースクールなど、不登校の子どもの居場所が他にあるということか。  
⇒フリースクールと適応指導教室は類似した機能があるということは承知しているが、フリースクールは民間であるため、費用がかかる場合もある。一方、適応指導教室は無料であり、公的な施設として一定配置したいと考える。適応指導教室の利用率が低い理由の1つとして、利便性に課題があり、自宅から遠く、利用が困難であることも考えられるので、利用率の低い地域に出張型の適応指導教室を設置することを検討している。
- ・通所だけでなく、オンラインも活用してはどうか。  
⇒不登校児童生徒に対しオンラインの活用は、有効な手段の一つであると認識しているが、対象となる子どもの状況や特性によっては、対面の関わりが効果的な場合もあるので、支援の手法を検討していく。
- ・適応指導教室を利用している子どもたちの声を拾い上げてきちんと分析し、取組に反映させてほしい。

### 令和4年度全国学力・学習状況調査への参加について

「令和4年度全国学力・学習状況調査に関する実施要領」に基づき、令和4年度全国学力・学習状況調査へ参加することについて、令和4年1月18日の教育委員会定例会に議案上程する。

#### (主な意見)

- ・昨年度は、すくすくウォッチの導入によって、全国学力学習状況調査とすくすくウォッチを同じ日に行うと、非常に負担が多かったという意見があったが、基本的に今年度は同じ日には行わないように学校に呼びかけをするのか。  
⇒その方向で考えている。

### 令和3年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の堺市の結果について

毎年、文部科学省から、小学校5年生、中学校2年生の児童生徒に対して、悉皆調査で行っている全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果について令和3年度の速報版を報告する。

全国的には下降傾向である中、本市も中学校2年生の男子以外は下降傾向になっている。原因としては、新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、外遊びの減少、運動時間が減少したこと、一方で学習以外のスクリーンタイムの増加が考えられる。

#### (主な意見)

- ・体力向上を、授業の中で完全に行うことは困難。逆に、学校にある遊具や備品を工夫するなど、子どもたちが勝手に遊ぶものとの関係を研究したほうが、体力向上に繋がるかもしれない。
- ・いろいろな種類の運動を身近に経験できる場所、体を動かせる場所の確保の問題が大きいと考える。